議 事 録

会議名称	第4回小松市未来型図書館基本構想策定委員会
日 時	令和4年12月12日(月)13時30分～16時30分
場 所	小松市公会堂4階大会議室
出席者	<p style="text-align: right;">(敬称略・順不同)</p> <p>小松市長 宮橋 勝栄 小松市教育委員会教育長 石黒 和彦</p> <p>小松市未来型図書館基本構想策定委員会委員7名 座 長 平賀 研也 副座長 西村 聡 委 員 久保 由味子 委 員 道券 悠一 委 員 中村 知恵 委 員 山元 加津子 委 員 尾木沢 響子</p> <p>事務局(生涯学習課未来型図書館づくり推進チーム、小松市立図書館) 横山、坂下、千葉、吉田、界、中山、梶谷、加藤</p> <p>支援業務受託者(アカデミック・リソース・ガイド株式会社(以下「arg」)) 有尾、西谷／李(オンライン参加)</p>
欠席者	委員 金子 哲也
次 第	<p>1. 議事</p> <p>(1) 未来型図書館のビジョン・コンセプト案について (2) 施設・蔵書規模の考え方について (3) 官民連携による事業手法の可能性について (4) 立地候補エリアについて (5) 事業推進スケジュールについて (6) 今後のスケジュールについて (7) その他</p>
配布資料	<p>【資料1】 未来型図書館のビジョン・コンセプト案について 【資料2】 施設・蔵書規模の考え方について 【資料3】 官民連携による事業手法の可能性について 【資料4】 立地候補エリアについて 【資料5】 事業推進スケジュールについて 【資料6】 今後のスケジュールについて</p>
傍聴者	1名

<会議内容は下記のとおり>

挨拶（宮橋市長）

7月から始まった策定委員会も残り2回となった。最初は臆げであった未来型図書館のイメージが、ビジョン・コンセプトとして少しずつ言語化されてきたと感じている。土曜日に開催されたつながるミーティング第4回では、実際に市民のみなさんにどのように施設を使いたいのか「妄想」というかたちで考えていただく非常に楽しいワークショップとなった。来年度以降の検討を具体的に進めるなかでも、未来型図書館づくりにおいては市民との関わりを大切にしながら「ともに作る図書館」を実現していきたい。

また、事業手法についても市として研究していく必要がある。本日は官民連携の手法を紹介いただくが、市が公設で全て行うのではなく、民間と協働で進めることも大切だと感じている。費用面だけでなく、民間のみなさんと協働のパートナーとして進められるような手法について、研究課題として取り組みたい。

子ども司書の養成講座も一旦終了し、次のステップに進んでいる。図書館建設だけでなく、図書館に関わっていく人を育てていながら、未来型図書館づくりをより良いものにしていきたい。

1. 議事

(1) 未来型図書館のビジョン・コンセプト案についてargより説明。(資料1)

【質疑応答・意見交換】

平賀座長	資料P7までが基本構想の核であり、今後の重要な方向性になっていく。このまちでどんなことをしたいか、これまで出てきた市民のみなさんの希望を、抽象化したり具体化したりということを繰り返し行ってきた。これまで委員会で話したことを、市民のみなさんにワークショップを通してお返しし、このビジョン・コンセプトの下で、具体的にどんなことがしたいだろうというワークを実施した。 そのうえで、P9で6つのテーマを挙げている。こちらについては、基本計画を含む今後、より具体的に議論していく必要があると考えられるものを挙げている。もし、視点として足りないものがあればコメントをいただきたい。
西村副座長	P7の図を見て質問がある。3つの円の中にイラストと言葉があるが、各機能は未来型図書館の施設の中に全てを行うのか、それとも図書館を拠点として別の場所と連携を取り合うというイメージかどちらか。
arg有尾	現段階ではどちらもあり得ると考えている。図書館が繋ぎ手の役割を担う必要はあると考えているが、他の施設との連携や他の機能を集約することも含め、効果的な在り方を、次のステップ以降より詰めて検討を行っていく必要がある。
平賀座長	あくまでも市民が主役であることを前提としている。本来は市民が自発的・主体的に、様々なことに取り組んでいく状態が望ましいが、施設をつくるだけでは自然にそのようなことは起こりがたい。そのうえで、何らかのつなぐ機能

	<p>が必要になるであろう。例えば学校連携がある。学校でこんなことをやりたいが、なかなか手がかからないということも多く、新しい施設と一緒にやってくれたらいいという話も先日のつながるミーティングでも伺った。ただし、最終的には、市民主体でできる場所をイメージしていけたらと思っている。</p>
中村委員	<p>土曜日のつながるミーティングでみなさんの妄想を聞いていて、みなさんが世代間を超えたつながりを求めているのだなと感じた。また、ある程度の年齢以上の参加者の方からは、これまでのキャリアなどを社会に還元できるいいという妄想も見られた。大学生も参加されていたが、核家族化が進むなか、世代間の触れ合いに、より興味を持っているのだと強く感じた。出てきた妄想ストーリーとビジョン・コンセプトは重なっていると感じる。</p>
平賀座長	<p>先日空とこども絵本館の松居直先生の展示を見てきた際、館長ともお話をさせていただいた。すでに絵本館でもみなさんが主体的な活動をしているなか、新しい未来型図書館も一緒にそのような役割を担う存在になったらいいですねとお話したが、絵本館を含めて新しい施設を何か一緒に取り組んでいきたいというイメージは湧くか。</p>
尾木沢委員	<p>絵本館は、まさに「新しい図書館をつくりましょう」という目標のもとできた施設。ある意味スタッフだけではとてもできないことを、市民ボランティアの方とともに取組んできた。館内で自由に話すこともでき、話すことで新しいものが生まれているとも感じる。知の集積は図書館の要であることに変わりはないが、そこに、語り合うことで何かが生まれていく、ともにつくる、ともにあるという体験を、施設運営のなかで教えていただいている。そうした場所に、この未来型図書館がなっていくのだろうということをこのコンセプトの図を見て感じた。アメーバのようにまちに増殖していくようなイメージを持った。</p>
道券委員	<p>ワークショップに参加はできなかったが、盛り込めたらいいなということは十分盛り込まれているように感じる。経済的な観点で言えば、ビジネスのマッチングの拠点になればよいと思う。</p>
久保委員	<p>ワークショップに参加した。参加された人は多様な考えを持った方が多かった。説明からそういった多様な考えをビジョン・コンセプトでは網羅しているのではないかと感じている。</p>
山元委員	<p>当初は、「図書館」という言葉に随分引っ張られていたように思うが、先日のワークショップで、市長からサウナやお酒を飲むところなどがあつたらいいなどの言葉もあり、「図書館」の枠を外し新しいものをつくっていかうという思いが私たちにも届いたと感じる。「図書館」という言葉が少し邪魔になっていくようにすら感じる。</p>

施設の役割（機能）検討にあたる観点について	
平賀座長	これからコンセプトを具現化していくために、施設の役割（機能）検討にあたる観点をまとめてもらっている。今挙げられている6点以外に何か足りない要素がないか等ご意見いただきたい。
山元委員	「5.まちづくり（施設はリアルなまちとどうつながっていくか）」に入るかもしれないが、銀行やコンビニ等、お年寄りなどの生活基盤となり、そこに行けば全て用が済むようなところであるといいという話も、つながるミーティングで出ていた。また、企業との連携なども検討が必要になるのではないか。
平賀座長	その施設のなかにつくるかには限らないが、生活基盤は非常に重要な観点。「5.まちづくり」だけでなく、「3.市民活動の支援（出会い、発展させていくための仕組み）」にもつながる話かもしれない。
久保委員	先日の小松っ子を育てる市民会議にて防災の話が出た。ボランティアが来てくれて助かったが、ボランティアにもプロ・アマそれぞれあるが、プロのボランティアにどう頼めばよいのかなどを問い合わせができる場所があるといいという話を聞いた。
平賀座長	施設の「3.市民活動の支援」機能の持ち方の問題に関わる話かと思う。防災でいえば、世田谷区では市民が危機発生時の食糧等の支援手配を担うという仕組みができています。そういう意味では緊急時の対応もこの施設としてどう対応するのか検討する必要があると感じた。

（2）施設・蔵書規模の考え方について arg より説明（資料2）

【質疑応答・意見交換】

平賀座長	人口規模にばらつきはあるが、挙げられた事例の蔵書数は20万～40万冊程度。現状の小松市の蔵書数の同等から倍、というのが事例からのイメージといえる。ただし、蔵書数が増えればよいというわけでもない。蔵書数を増やすことは蔵書の新鮮さをどの程度維持して更新していくのかにも関わる。現状小松市は資料費予算が年間約二千万円なので、月に千冊弱が更新されている。つまり蔵書規模が倍になれば、単純にその更新も含めて費用が倍、数千万単位のインパクトになるということも意識する必要がある。蔵書数が増えれば運営費も増えるということを留意いただきたい。また選書によっては一冊も借りられない本が出てくることもある。20年でその本がいなくなるのか、10年でいなくなるのかは大きな違いであるし、予算の規模を下げれば下げるほど同じ棚のなかに100年前の本が存在する、ということもあり得る。単純に規模を考えるにしても、そうした資料の鮮度の側面も考慮する必要がある。
平賀座長	全市、冊数の記載もあるが、分館展開や公民館との連携をどうするか等も考慮して全体としての検討をする必要がある。規模を検討する際に、資料として

	<p>の費用、それを整えていくための費用、その中に市民参画をどうコントロールしていくのか、というのも大切なテーマとなっていくだろう。</p>
尾木沢委員	<p>16年前に絵本館を作った頃は、市内に本屋さんが9店舗あったが、現在2店舗になっている。図書館ができるということはまちの中の図書館が困るということ店舗から指摘されたこともある。海老名市の事例では図書館に書店が入っているのはとても面白いと思う。大きな意味で図書館と本屋さん、まちという規模で捉えるのが必要と感じる。</p>
平賀座長	<p>最近、取次店から直接購入する図書館も多いが、例えば、私が館長をしていた時代は、取次からの購入の割合を4割以下に抑え、残りは地元の書店組合から購入する。書店組合もそれに甘えることなく、必ず見計らいとして毎週自分たちが買ってほしい本を図書館に持ってくるということを、それぞれの専門分野をもってやりましょうという仕組みにした。また、長野県では電子書籍のプラットフォームを整えているが、そこで検索したところですぐ買えるという仕組みづくりを検討している。さまざまな仕組みも検討したい。</p>
事務局 横山	<p>昨年度末時点で、小松市には書店組合として3店舗あったが、3月末で組合が解散した。</p>
事務局 中山	<p>P12の地域のなかでの面としての検討に関連すると思うが、まちライブラリーの取り組みは非常におもしろいと思っている。石川県内でも、商店街を盛り上げるため、加賀市でも民間のみんなの図書館が立ち上がってきている。商店街の中に図書棚があるなど、小松市内全域に本が点在するような、未来型図書館から地域のお店を結び付けたり、本を通じて回遊していく仕組みも研究してみたいと思う。</p>
平賀座長	<p>先日、岡山県西粟倉村に行ってきた。そこでは「村まるごと図書館というプロジェクト」があり、村もサポートしながら、個人の施設などにも小さなテーマ別の図書館を配置している。いろいろな関わり方は可能であると思う。</p>
平賀座長	<p>蔵書規模、施設規模・機能については、投資だけでなく、毎年発生する運用コストも含めてある意味覚悟いただく必要がある。詳細な検討は今後になるが、私たちとしては、ある程度の財政規模の施設にはならざるを得ないだろうということは申し上げておきたい。</p>
宮橋市長	<p>財政面の観点からも検討が必要な点である。現状の二十万冊は単純にスペースの問題でもあり、更新が早くなってしまう状況もあると思う。県立図書館もとても立派なものが開館したので、そうした施設との連携・デジタルの活用等、仕組みを考えつつも、今よりは費用は膨らむものというイメージは持ったうえでの検討を進めていきたい。</p>
平賀座長	<p>県立図書館とも連携するなど、まちの中にどれだけ豊かな情報があるかということを目指したい。</p>

(3) 官民連携による事業手法の可能性について arg より説明 (資料3)

【質疑応答・意見交換】

平賀座長	arg からも説明いただいたが、これまでの官民連携は、経済性の効率化を主目的になされてきたものがほとんどだったが、近年さまざまな模索がされている。これまでは官と民＝「企業」という理解だったが、官と民＝「企業」・「市民（市民組織）」の三者の連携をどうつくるかが模索されてきていると感じる。ここでは、単に投資や運用コスト削減ではなく、市民もステークホルダーとして関わりながら本当の意味での小松市での価値を生む PPP の検討をお願いするにとどめたいがいかがか。
arg 李	補足として、PFI 等は法・制度で定められているため、デザインしていくためには学習していかなければならないという側面もある。事業者、自治体、委員、市民それぞれが学習していく必要がある。
平賀座長	小松の事業者や個人など当事者の方が参画できるような仕組みを作っていきたい。

(4) 立地候補エリアについて事務局より説明 (資料4)

【質疑応答・意見交換】

平賀座長	前回の委員会でコメントいただいた3つのエリアを紹介いただいているが、ここから絞っていく必要がある。検討にあたっての視点としては、P2で挙げた利便性向上、各エリアの特徴とビジョン・コンセプトとの親和性、事業手法・財政負担、公共施設マネジメント推進、自然域の図書館サービスのバランスなどがあるが、ご意見をいただきたい。
平賀座長	他の施設とのつながりの観点についても、今ある美術館や博物館をどうしていくのか。施設間の関係性など、新しい図書館ができる場所だけでなく、さまざまな可能性を持った視点を重視していきたい。特にご意見なければ、市民のみなさんが集まって何かが起こるような場所をつくっていく、という視点を大事にしたい。
道券委員	駐車場について気になった。たとえば、交通機関を使ってしかいけない場所は便が悪いのではないか。施設との共存ということを考えるのであれば、もう少し賑わいのある場所につくるのが自然ではないかという疑問がある。
平賀座長	エリアをつくっていくという話も出たが、まちとしてどこに賑わいをつくっていくかということを検討する必要がある。いずれにせよ挙げられている3エリアは駅から1km圏内なので、妥当ではあると感じる。
宮橋市長	交通に関していうと、3月からシェアサイクルを導入していたり、さらにその先でいうと、電動キックボードや自動運転や小松版 MaaS として取り組んでいるデマンド型の交通であるとか、将来的にはそういう機能を中心部に集約できたらと思っており、そこから半径1キロの中での検討となるかなと思っている。先ほどの事業手法で、それぞれのエリアで密接に研究すべきことが、芦城

	公園だとかいうことを研究しないといけない、運動公園だとかいうことを研究しないといけない、という手法の研究・検討の仕方が少し変わってくると思う。官民連携と事業手法の検討の中で、それぞれのエリアで深めていく必要があると感じる。
山元委員	公会堂について、議会でもそろそろ壊す時期ではないかという意見がかねてから出ていると思うが、その運用費なども併せて検討するのがよいのではないか。
宮橋市長	施設の単体ではないライフサイクルコストを、市としてどう考えるかということも併せて検討していかなければならないと考えている。
事務局 横山	当初7エリアからすでに3エリアに絞り込みができています。コンセプトを実現できるエリアの絞り込みを検討していきたい。

(5) 事業推進スケジュールについて arg より説明 (資料5)

【質疑応答・意見交換】

平賀座長	実現へ向けてのスケジュールを提示していただいているが、委員の皆さんはどのような体制で進めるのがよいかという意見をいただきたい。石川県立図書館では施設をつくる過程において、プロジェクトメンバーは海外も含め200を超える事例の視察を繰り返したと聞いている。何かを見ながら意見交換を重ねることは非常に有効だと思うので、そういった場合はぜひ設けていただくとよいだろう。そういった体験を通じて未来型図書館が実現できるのではないか。つながるミーティングのような市民との共創という観点も重要。施設をつくる過程、また、できたあとも、いつでもやりたいことを話し合える場を継続していけたら良いのではないかと思う。今後の進め方についてご意見いただきたい。
平賀座長	早い段階から建築家を入れて検討をするという自治体もある。一般的な進め方では、建築家からは基本設計からでは遅いという声を聞く。情報を設計する方々もかたちが決まってしまう前から議論に参加したいという声もあった。
事務局 横山	昨年度からつながるミーティングを開催しているが、来年度以降も継続していきたいと考えている。市長も対話を実践するということを掲げており、市民と一緒に学びながらつくっていくというプロセスを大切にしたいと考えている。
平賀座長	白馬村の市民フェスのように、対話・ワークショップで検討するだけでなく、実際にやってみるといえることができる面白くないのではないかと感じる。まち歩きも今後もっと実践できればと思う。
事務局 中山	つながるミーティング第4回に参加して、描かれている妄想ストーリーがそれぞれ違って、イメージが浮かんでくるものばかりだった。普段の仕事でも市民のみなさんにこうなってほしいという妄想をしていて、それと同じだと

	感じた。未来型図書館はそこからなにかワクワクが始まる場として、みなさんと一緒にそれを実現するための仕組みづくりを考えていきたい。
平賀座長	ぜひ美術館、博物館、図書館もこのコンセプトに則った活動を行ってほしい。つながるミーティングの中で実施できればと思う。エリア検討や事業手法については専門家にサポートをうけることも重要である。また、一昨日のつながるミーティングに公立小松大学の学生が参加するだけで雰囲気が変わった。昨年度は市内の子どもたちに未来型図書館の絵を描いていただいたが、絵だけでなく、たくさんの若い人とつながっていきたい。

(6) 今後のスケジュールについて arg より説明 (資料6)

(7) その他

次回、第5回策定委員会は2月6日(月) 13時30分より市役所にて開催予定。

以上